

2024年6月19日

学部生・大学院生 各位

国際教育交流課

スタンフォード日本センターでの英語講義受講生  
【2024年秋学期生】募集について

スタンフォード日本センターStanford Japan Center(以下 SJC)は、米国スタンフォード大学が運営する教育機関です。同志社大学今出川キャンパスにあり、例年、スタンフォード大学から約 35 名の学部生が参加し、講義は日本の政治、経済、宗教、文化、科学等、幅広く網羅されており、スタンフォード大学本校から赴任する教授や関西の諸大学の研究者が講義を担当します。文系理系を問わず参加できます。

京都に居ながら、米国本校で提供されるのと同等の講義を受け、米国の大学生と共に学んで交流し、米国留学を疑似体験できる貴重な機会です。下記の通り、SJC が提供する英語講義の受講を希望する京都大学学生を募集します。

※本講義は審査のうえ、所属学部・大学院から単位として認定される場合があります。詳細は「5. 諸留意点」の(6)を参照してください。

記

1. 募集要項：

講義はすべて英語で行われます。米国の学生と同様の課題が課せられ、講義への積極的な参加が求められます。登録者は京都大学の代表としてスタンフォード大学の講義に参加します。学期途中での受講取り止めや無責任な講義欠席は認められませんので、よく考えた上で応募してください。

(1) 募集人数：4名程度（1講義につき本学学生の参加は2名程度とする。）

(2) 応募資格：

- ① 2024年度後期に本学に在籍する学部生・大学院生（休学中の者は応募不可）
- ② 日本及び日本語に関する相当の知識を有する者
- ③ TOEFL iBT 79、TOEFL ITP 550 又は IELTS 6.0 以上の英語能力を有する者
- ④ 受講希望科目についての基礎知識を有する者

2. 日程（※参加必須）：

・応募締切：2024年7月3日（水）17：00

・面接※：2024年7月9日（火）18：30-19：10

2024年7月10日（水）12：15-13：05

2024年7月11日（木）12：15-13：05のうち、指定されたいずれか1日

・合格者説明会※：2024年7月31日（水）12：15-13：05

---

- ・SJC オリエンテーション※：2024年9月26日（木）9：00-11：30（集合8：50）
- ・SJC 授業期間：2024年9月27日（金）～12月11日（水）
- ・SJC テスト期間：2024年12月12日（木）

3. 費用：受講料は無料です。教科書・参考書の費用は受講生各自が負担してください。

4. 応募方法：応募はオンライン申請及び国際教育交流課への応募書類原本の提出が必要です。「KCJS/SJC 応募方法・手順について」に従って手続きしてください。（「KCJS/SJC 応募方法・手順について」は KULASIS 全学生向け共通掲示板から、「SJC」で検索し、掲載ページの添付ファイル内から入手できます。）また、申請書、推薦書のワード版は、京都大学ウェブサイトからダウンロードできます。

#### 5. 諸留意点：

- (1) 講義は SJC（同志社大学今出川キャンパス内明德館）で行います。
- (2) 受講期間中は、以下の保険に加入必須です。
  - ① 学生教育研究災害障害保険
  - ② 学研災付帯賠償責任保険（※留学生の場合は学生賠償責任保険）
  - ③ 学生総合共済（生命共済）
- (3) 今学期に提供される科目は、別紙「授業概要」の通りです。この中から希望の科目を選んで応募してください。
- (4) 京都大学及び SJC の書類、面接等による選考を経て許可を得た者のみ受講できます。
- (5) オリエンテーション～授業期間終了までの間に就職活動中の場合は、原則として申請を避けてください。
- (6) 科目登録・単位認定に関する注意事項：
  - 1) 本講義は、2024 年度後期科目\*です。大学が一括して履修登録を行いますので、KULASIS 等への登録手続は不要です。  
（\*所属学部・研究科によって単位認定時には前期・後期の区別がない場合があります）
  - 2) 単位認定について
    - ① 本講義受講にあたっては、単なる聴講は認められず、必ず単位認定審査をする必要があります。
    - ② 参加が決まった学生は、「所属学部・研究科に単位認定の審査を申請することになります。詳細は合格者説明会で説明しますが、各学部・研究科により 2024 年度後期科目の単位認定事前申請の締め切り日が合格者説明会よりも前に設定される場合もありますので、応募の際は、各学部・研究科教務担当窓口にて単位認定事前申請締め切り日を確認し、必ず申請できるように準備してください。また、面接後に合格者宛に詳細をメールでご連絡しますので、申請方法についてはメールをご確認ください。
    - ③ 単位として認められる場合は、(1) 所属学部・研究科の単位、(2) 全学共通科目の単位のいずれかとなりますが、学年、所属学部・研究科により異なります。
    - ④ SJC から単位は付与されません。
  - 3) 2024 年度後期に本科目と他科目との時間割が重複した場合は、いずれか一方の履修しかできません。重複がないかを確認するため、授業登録情報（KULASIS）のコピー提出が必要

です。

4) 履修を学期途中で取りやめることはできません。

(7) SJC 及び KCJS (京都アメリカ大学コンソーシアム) の英語講義の受講経験者も応募できます。ただし、受講経験のある講義には応募できません。

※受講経験者の感想を以下の URL に掲載していますので、参考にして下さい。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/class/kcissjc/sjc-hokoku>

(京大 HP > 教育・学生支援 > 海外留学を希望する京大生へ> 京都で学べる英語の授業> KCJS/SJC 講義の受講 > SJC 参加報告書)

<参考>

SJC (旧 SCTI) は、米国スタンフォード大学の日本留学プログラムとして 1990 年に誕生しました。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的としています。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治学、国際関係学等多岐にわたっていますが、技術系専攻の学生が多いのが特徴です。日本語教育にも力を入れており、来日前にはスタンフォード大学本校において日本語授業の履修が義務づけられている他、来日後は毎週 8 時間の日本語の授業が必修科目となっています。2006 年夏より同志社大学内に拠点を定めています。

所在地：京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601 同志社大学明德館 2 階

【本件問合せ先】 国際高等教育院 河合淳子 教授・若松文貴 准教授

国際・共通教育推進部国際教育交流課海外留学掛 滝本

Tel: 075-753-5407 Email: [kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

◆講義時間割◆

スタンフォード日本センター2024年 秋学期  
(2024年9月27日～2024年12月12日)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1					
2					
<b>LUNCH BREAK</b>					
3 13:10 - 14:40			Animal Cognition by Prof. Thomas Icard	Queer Culture and Life in Japan by Prof. Yuka Kanno	
4 14:55 - 16:25					
5 16:40 - 18:10					

- ・同一科目が1週間に2回ある場合は両方の講義に出席する必要があります。片方だけの講義出席は認められません。
- ・期間中、各講師の都合によりクラス時間の変更等が生じる場合があります。
- ・金曜日・週末にはクラスのField Tripが行われる場合があります。

## Stanford Program in Kyoto Course Offerings – Autumn Quarter 2024

各クラスの講義の時間は、以下の通りですが、授業によっては、フィールドトリップが講義時間外（平日、週末含む）にも実施される予定です。フィールドトリップの日時の確定は、学期開始後となります。

### **1. Animal Cognition by Professor Thomas Icard Wednesday, 3rd (13:10-14:40) AND 4th (14:55-16:25)**

The study of non-human thought and cognition raises distinctive methodological and philosophical challenges, often putting pressure on orthodox views in cognitive science. What are animal minds like, and how do they compare to our own? What exactly can we learn about these questions from controlled experiments? Does failure at a task imply absence of an ability or trait? What other methods do we have for understanding animal cognition? How might what we learn about other animals shed light on our own mental processes?

This course will address these and other many issues through a combination of readings, discussions, and visits with researchers who conduct such research. Topically, we will focus attention on learning and memory, causal thought and reasoning, planning, language and communication, social cognition, metacognition, consciousness, and moral psychology.

Prof. Thomas Icard is Professor of Philosophy and (by courtesy) of Computer Science at Stanford University. He earned his Ph.D. in Symbolic Systems from Stanford University and Master of Science degree in Mathematical Logic from the University of Amsterdam.

### **2. Queer Culture and Life in Japan by Professor Yuka Kanno Thursday, 3rd (13:10-14:40) & 4th (14:55-16:25)**

“Queer,” writes Eve Sedgwick, “refers to the open mesh of possibilities, gaps, overlaps, dissonances and resonances, lapses and excesses of meaning when the constituent elements of anyone’s gender, of anyone’s sexuality aren’t made (or can’t be made) to signify monolithically.” Or according to David Halperin, queer “describes a horizon of possibility whose precise extent and heterogeneous scope cannot in principle be delimited in advance.”

Yet, queer is not a term meant only to fantasize a utopian “somewhere.” It has been used to question and challenge homophobia, sexism and racism, under which run the ideas of “heteronormativity.” Thus, by paying particular attention to the politically critical potential of “queer,” this course explores queer lives and cultural practices in Japan through film, literature, theater, art, and personal testimonies. We will look at queer culture as a “lived experience” and queer life as a “cultural experience” at the same time. What does it mean to be queer in Japan? How does the term “queer” signify differently from a US context? What is the critical potential of “queer” and under what conditions can it become potential? And what is the possible danger or risk of mobilizing the term/concept of queer? We will tackle these questions by closely analyzing a wide range of texts and events. This class is designed for students interested in cultural studies, feminism, queer studies, gender and sexuality studies, LGBT activism and community in Japan.

Prof. Kanno gained her Ph.D. in Visual Studies with an emphasis in Feminist Studies from the Department of Women’s Studies, University of California, Irvine. She is Professor in the Graduate School of Global Studies at Doshisha University and a founding member of Feminist, Gender, and Sexuality Studies (FGSS) Research Center, Doshisha University. Her research interests include queer theory and criticism, gender and sexuality

studies, visual culture, feminist film studies and Japanese cinema. Her current projects focus on queer film festivals and transnational queer girls' cinema and culture. The author of numerous publications on queer and film theory, Prof. Kanno has also organized several queer themed-film screenings in Japan. She has taught in the Stanford Program in Kyoto since 2017.